

テーマ オリジナルの情報源

■ありふれた情報の価値

これは元運送会社社員Aさんの話です。Aさんは運送会社の社員でしたが、あるとき急に会社を退職しました。しばらくして再会した時に退職理由を聞いて驚きました。それは次の通りです。

「株式投資で大当たりして数千万円の利益が出たので、会社を辞めて独立しました。今後ともよろしく！」

Aさんはジョッキのビールを飲み干し、すがすがしい顔でこれからのビジネスプランについて熱く語っていました。

お互いすっかり酔いが回った頃、Aさんへ株式投資の必勝法を聞いたところ、教えてくれた秘訣は次の通りです。

「毎日の配達業務で、聞いたこともない会社の荷物が徐々に増えていることに気付いた。これは今後成長するのではと思い、その会社に絞って集中投資をしたところ、しばらくして株価が暴騰した」

ある会社の荷物が増えているかどうかは、配達員にとって「ありふれた情報」ですが、その情報を株式投資に活かしたことがAさんの勝因です。

同じ荷物の情報でも、受け止める人の問題意識によって大きく変わることを痛感しました。

残念ながら数年後、Aさんは事業に失敗してしまいました。すっかり元気をなくしたAさんと居酒屋で「反省会」をした際、Aさんの失敗の原因が、過去に事業に失敗した私と同じことに気付きました。それは起業時に「潤沢な資金がある」ことと大いに関係があります。

起業時に資金があると、全く売上が立っていないのに「お金を使うこと」ばかり考えてしまいます。失敗すると思って事業をスタートする人はいないため、あれもこれもと必要と思われるものをウキウキしながら購入し「売上の見込みがないのに会社ごっこで人を雇ってしまうと地獄の始まりです。

会社経営において「お金をどうやって使うか」と「どうすればお金を使わずにできるか」とでは、取るべき戦略は全く異なります。

キャッシュフローこそ事業の要であり、売上利益以上のお金を使っていればいつかは資金がショートします。考えてみれば当たり前のことですが「恋は盲目」の言葉通り、自分の事業に惚れ込んでしまうと不思議なくらい気付かないものです。

豊富な資金で事業を開始する際は「お金をどうやって使うか」に意識が向かないように十分注意する必要があります。



■とっておきの情報源の作り方

仕事に活かせる自分だけの情報源の作り方ですが「他の人がゴミ箱に捨ててしまうようなもの」にこそヒントがあります。

創業時にテレアポの技術を学ぼうとして、毎日午後5時から3時間、学習教材会社のテレアポのアルバイトをしたことがあります。電話番号が書かれたリストをもらい、ひたすら電話をかけ続けるハードな仕事です。

仕事を始めて一週間、仕事自体には慣れてきましたが、全く成果が出ませんでした。ただがむしゃらに電話をかけ続けたため、電話番号のリストがなくなってしまいました。

さてどうすべきか考えていると、マネージャーのBさんがニコニコしながら近寄ってきて「ちょっとそのリストを貸してくれる？」と言いました。ついさっき断られたばかりのリストをBさんは一体どうするのだろうと思って見ていると、隣に座ってさっそく電話をかけ始めました。

Bさんへ「それはさっき断られたばかりですよ」と言いましたが、Bさんは分かっている様子でした。Bさんは電話をすると「先ほどは当社の新人が大変失礼しました」と言って、私が1件も取れなかったアポイントを次々に成功させました。圧倒的なプロの仕事に、背筋がゾクゾクするほど感動しました。

私が「一見価値がないものに注目する」ようになったのは、Bさんの影響かもしれません。

会社にたくさんセールスの電話がきて困っている人も多いと思いますが、その電話には自社に活かせる営業のヒントが隠されています。

当社では以前、セールスの電話を「いつ・誰が・何時に」かけてきたのリストアップしていました。同じ会社からの電話のタイミングに「ある法則性」を見出した時、そのノウハウは自社の営業に活かすことができます。

ある証券会社の営業マンは、土曜日限定で電話をしていました。その理由を聞くと「土曜日に出勤している人は管理職以上のキーマンが多く、事務員さんが休みなので直接話ができる」とのこと。

そこで私も土曜日に注目したところ、ベンチャー企業が顧客を次々に開拓できる秘訣をつかむことができました。それは「大手企業が休んでいる時に仕事をする」ことです。

取引先の手続きが休みの時、困ったお客様は会社の規模など関係なしに問題を解決してくれる会社を探します。そうした困ったお客様のニーズに丁寧に対応すると信用してもらえらることを知り、創業期の顧客開拓にとても役立ちました。

仕事に役立つオリジナルの情報源は「他の人にはその価値が分からないもの」に注目し、地道に観察して「必勝パターン」を発見した時に初めて自分のものとなります。